

学校薬剤師協議会運営委員会

日時 平成 26 年 11 月 22 日（土）15：00～17：00

場所 長崎プリックホール（3F 会議室 4-5）

出席者 21 名

日本薬剤師会学校薬剤師部会長

- ・昨年度、高校生向けの薬教育の DVD、学校衛生検査方法の DVD を配布
- ・昨年度、3 月に実施した、若手学校薬剤師対象の衛生検査方法の研修会を夏休みに実施する予定
- ・日薬の役員の交代等により、部会のスタートが 10 月になった
- ・学校薬剤師会のブロック会議を九州でも開催したい
- ・来年度は、学校薬剤師部会の負担金は、徴収しない方向

協議事項

（1） 学校環境衛生検査実施状況について

定期検査を試験センターが多く为学校で受注している。サンプリングは、学校薬剤師が行い、データをフィードバックしている。他の検査機関が実施した場合、フィードバックが難しい現状がある（鹿児島）

完全実施には程遠い状況（福岡）

検査機器の校正、検定について検定機関（検定業者）からコンタクトがあった県があるが、そこまでは行う必要はない。

（2） フッ化物洗口について

ミラノール顆粒によるフッ化物洗口は、1 回当たり 20 円～40 円の費用が掛かる為、熊本県では、試薬を使用している。その他の県では、試薬は使用していない。宮崎県は、4 年間で 100% 実施を目指している。山口県に於いても小学校では、12 市町がミラノール顆粒によるフッ化物洗口を行っている。薩摩川内市では、薬剤師会が歯科医師会のサポートに回って 100% 実施を目指している。

（3） くすり教育の取り組みについて

薬物乱用防止教育の講義の中で、一部時間をとっている県が多い。TT としての活動が理想であるが、なかなか実施されていない。今後、くすり教育の実施の把握、学校薬剤師の参加のあり方について検討する必要がある。最後に、村松部会長より、「くすり教育と薬物乱用防止教育は、全く違うものだということを認識しておいて欲しい」というお願いがあった。

（4） 学校薬剤師組織の在り方について

日薬が主導する九山ブロック会議が開催されていない為、早急に体制整備を行う必要がある。各県の連携のための連絡網を構築したい。来年度、九山ブロック会議を開催したい。

文責 沖田敏宜